2026 年 6 月 25 日

各位

北海道新聞社

編集業務支援 AI システム「D-ai」 宮崎日日新聞社が導入

～「記者による記者のための AI」 質の高い報道と編集業務 DX を加速～

株式会社北海道新聞社（本社：札幌市、代表取締役社長：堀井友二、以下「北海道新聞社」）が自社開発した編集業務支援 AI システム「D-ai（ディーアイ）」が、株式会社宮崎日日新聞社（本社：宮崎市、代表取締役社長：見山輝朗、以下「宮崎日日新聞社」）に導入されたことをお知らせします。

「D-ai」は、入力したデータが外部の AI 学習に利用されないセキュアな環境と高い拡張性を備えており、北海道新聞社編集局の記者らが編集現場のニーズを基に開発・改良していることが特徴です。北海道新聞社では 2025 年 6 月から運用を開始しており、宮崎日日新聞社への導入は「D-ai」の社外展開の第一弾となります。

■導入の背景と目的：質の高い報道と業務効率化の両立

宮崎日日新聞社は、これまで培ってきた正確で質の高い報道体制を維持しつつ、さらなる信頼性の向上と業務効率化を両立させるための「デジタル変革（DX）」を推進しています。

一方、北海道新聞社は同様の理念の下、生成 AI 技術を活用した業務効率化と働き方改革を目指して「D-ai」を開発・導入してきました。今回、両社の経営戦略が合致し、編集現場の記者が真に必要とする AI サービスとして「D-ai」の導入が決定しました。

■「D-ai」の特徴：現場感覚で磨き上げた「記者のための AI」

「D-ai」は、北海道新聞社編集局の AI 開発チーム「D-ai Studio」が、取材・執筆・編集を担う記者の要望を直接反映させて開発したシステムです。

1. 現場ニーズに即した「アジャイル開発」
   開発チームが現場と伴走し、日々変化するニュース制作のニーズに合わせて機能を柔軟にアップデートします。これにより、実際の編集業務に即した利便性を実現しています。導入企業の要望に応じた新たな AI アシスタントの開発も可能です。
2. 報道倫理を守る「セキュアな環境」
   最新の大規模言語モデル（LLM）と API で連携しながらも、入力情報が学習データに利用されない安全な環境を構築し、機密情報の漏えいを徹底的に防ぎます。
3. スキル習得まで支える「人材育成支援」
   システム提供にとどまらず、AI の仕組みやリスクを学ぶリテラシー教育や、記者が安心して AI を使いこなし、自らの能力を最大限に発揮できる体制づくりをサポートします。